

ダム事業事後評価書

1	夕張シューパロダム建設事業	1
---	---------------	---

令和元年度
北海道開発局

事業名	夕張スーパーダム建設事業																																						
事業の概要	①事業目的：防災操作、流水の正常な機能の維持、かんがい、水道、発電の5つを目的としている。 ②事業内容：多目的ダム建設 ③事業規模：【堤高】110.6m、【堤頂長】390.0m ④事業期間：平成3年度～平成26年度																																						
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	費用	事業費：当初全体計画時点1,470億円、実施事業費1,684億円 夕張スーパーダムの事業費は、工事の内容変更、物価上昇等により、当初全体計画時点（平成7年度）と比較し、約214億円増加した。																																					
	工期	平成22年度の第2回全体計画変更時のおり、平成3年度～平成26年度。																																					
	費用対効果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>当初全体計画時点 (平成7年度)</th> <th>事後評価時点 (平成30年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①総事業費</td> <td>1,470億円</td> <td>1,684億円</td> </tr> <tr> <td>②事業費（河川分）</td> <td>706億円</td> <td>821億円</td> </tr> <tr> <td>③維持管理費</td> <td>—</td> <td>41億円</td> </tr> <tr> <td>④総費用（C）</td> <td>—</td> <td>1,440億円</td> </tr> <tr> <td>⑤年平均被害軽減期待額</td> <td>—</td> <td>177億円</td> </tr> <tr> <td>⑥治水便益</td> <td>—</td> <td>4,459億円</td> </tr> <tr> <td>⑦不特定便益</td> <td>—</td> <td>1,587億円</td> </tr> <tr> <td>⑧残存価値</td> <td>—</td> <td>19億円</td> </tr> <tr> <td>⑨総便益（B）</td> <td>—</td> <td>6,065億円</td> </tr> <tr> <td>費用便益比 B/C（⑨÷④）</td> <td>—</td> <td>4.2</td> </tr> </tbody> </table>					項目	当初全体計画時点 (平成7年度)	事後評価時点 (平成30年度)	①総事業費	1,470億円	1,684億円	②事業費（河川分）	706億円	821億円	③維持管理費	—	41億円	④総費用（C）	—	1,440億円	⑤年平均被害軽減期待額	—	177億円	⑥治水便益	—	4,459億円	⑦不特定便益	—	1,587億円	⑧残存価値	—	19億円	⑨総便益（B）	—	6,065億円	費用便益比 B/C（⑨÷④）	—	4.2
	項目	当初全体計画時点 (平成7年度)	事後評価時点 (平成30年度)																																				
①総事業費	1,470億円	1,684億円																																					
②事業費（河川分）	706億円	821億円																																					
③維持管理費	—	41億円																																					
④総費用（C）	—	1,440億円																																					
⑤年平均被害軽減期待額	—	177億円																																					
⑥治水便益	—	4,459億円																																					
⑦不特定便益	—	1,587億円																																					
⑧残存価値	—	19億円																																					
⑨総便益（B）	—	6,065億円																																					
費用便益比 B/C（⑨÷④）	—	4.2																																					
事業全体の投資効率性	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>B. 総便益(億円)</th> <th>C. 総費用(億円)</th> <th>B/C</th> <th>B-C</th> <th>EIRR(%)</th> <th>基準年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>平成3年度</td> </tr> <tr> <td>事後</td> <td>6,065</td> <td>1,440</td> <td>4.2</td> <td>4,625</td> <td>—</td> <td>平成30年度</td> </tr> </tbody> </table>						B. 総便益(億円)	C. 総費用(億円)	B/C	B-C	EIRR(%)	基準年度	当初	—	—	—	—	—	平成3年度	事後	6,065	1,440	4.2	4,625	—	平成30年度													
	B. 総便益(億円)	C. 総費用(億円)	B/C	B-C	EIRR(%)	基準年度																																	
当初	—	—	—	—	—	平成3年度																																	
事後	6,065	1,440	4.2	4,625	—	平成30年度																																	
事業の効果の発現状況	<p>(防災操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕張スーパーダムは、平成27年（2015年）の管理開始からの4年間で4回の防災操作を行い、下流の洪水被害の軽減に貢献した。 ・平成28年8月洪水ではダムの防災操作により、平成28年8月洪水では最大約650m³/sの防災操作を行い、円山地点における水位を約2.0m低減した。 <p>(流水の正常な機能の維持)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム完成後は基準地点清幌橋において正常流量を確保しており、流況が改善しており、夕張スーパーダム供用前にほぼ毎年行われていた利水者による自主節水は、ダム供用後には行われていない。 <p>(水道)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕張スーパーダムから石狩東部広域水道企業団（千歳市、江別市、恵庭市、北広島市、由仁町、長幌上水道企業団）へ、道央注水工を通じて水道用水の補給が行われている。 <p>(かんがい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム下流の夕張市・千歳市等の6市5町の田畑約29,010haに対して、最大50.129m³/sの取水を可能とするよう補給を行っている。 <p>(発電)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパー発電所の年間発電電力量（平成27～30年の平均115,330MWh）は平均的な一般家庭の約42,000世帯の1年間分の電力量に相当し、電力供給に貢献している。 																																						

<p>事業実施による 環境の変化</p>	<p>①水質の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貯水池水質について大きな変化はなく、水質は良好な状況にある。 ・選択取水設備により、下流河川に配慮した運用を行っている。 <p>②生物の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、動物の生息環境に影響を及ぼすような大きな変化は生じる可能性は低いと考えられる。湛水後にダム湖の水際では湿地性の確認種が増える傾向が見られていることから、今後も湿地性の種が増える可能性があると考えられる。 ・全体的には今後植物の生育環境に影響を及ぼすような大きな変化は生じる可能性は低いと考えられる。ただし、水位変動域の湖岸部や流入部は、試験湛水時の水位上昇等により自然裸地となっており、植生遷移の進行及び外来種侵入の可能性が考えられる。 ・環境保全対策については一定の効果が確認されている。
<p>社会経済情勢の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水源地域である夕張市の世帯数、人口は、ともに減少傾向にある。 ・夕張シューパロダムでは、ダム周辺を含め重要な観光資源として地元夕張市の活性化のために、湖面活用、ダム周辺をコースとした修学旅行、公共施設見学ツアー等の様々な取り組みが行われています。
<p>今後の事後評価の 必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効果が十分に発現しており、再事後評価の必要はないと考えられる。 ・今後はダム等管理フォローアップ制度に基づく分析・評価を行うこととする。
<p>改善措置の必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効果が十分に発現しており、改善措置の必要はないと考えられる。
<p>同種事業の計画・調査の あり方や事業評価手法 の見直しの必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のダム再生事業の事後評価においては、旧施設の運用等について、より分かりやすく資料整理する。